

特別講演 1

「メタボリックシンドロームの考え方とその治療」

富山大学附属病院 代謝・内分泌内科診療教授

浦風 雅春 先生

戦後、日本人の食生活が欧米化し、また、自動車の保有率が増える（運動不足）とともに、糖尿病など生活習慣病の患者数は激増し、その結果、脳血管障害や虚血性心疾患など、いわゆる動脈硬化性疾患が増加している。そして、肥満とくに内臓脂肪肥満にもとづくメタボリックシンドロームという病態が注目されるようになった。最近の研究から、脂肪細胞は単に過剰のエネルギーを蓄える貯蔵細胞としてだけでなく、様々なホルモンを分泌して生体機能を調節するきわめて重要な役割を果たしていることが明らかとなってきた。そして、内臓脂肪は、皮下脂肪に比べ細胞が大型化し、この大型化内臓脂肪細胞から、糖尿病、高血圧、高脂血症や動脈硬化などの原因となる炎症性サイトカイン（TNF- α や MCP-1 など）が大量に分泌されるため、内臓脂肪肥満状態が続くと、生活習慣病である糖尿病や高血圧、高脂血症が重複して発症し、心筋梗塞や脳梗塞などを発症させることになる。

本講演では「メタボリックシンドロームの考え方とその治療」について概略をのべさせていただきます。